

P0027, P0028

『ラーガーフォイアー』、松山のドイツ兵捕虜のための週刊新聞、第1年次第1号～第25号

"Lagerfeuer". Wöchentliche Blätter für die deutschen Kriegsgefangenen in Matsuyama. I. Jahrgang No.1-25. Neudruck, herausgegeben im Kriegsgefangenenlager Bando, Japan. Januar 1919

1919年1月発行

謄写版（一部多色刷り）

21.5cm × 32.0cm

520ページ

布張り製本

松山収容所で秘密裏に発行されていた週刊新聞の復刻版。元はタイプライターで印字され、こんにやく版やカーボン紙による複写であったが、これは謄写版。「ラーガーフォイアー」とはキャンプファイアを意味するドイツ語だが、この新聞のタイトルは従来『陣営の火』とも訳されていた。内容は、日本や中国についての紹介記事、戦況分析、歴史、自然科学のほか、収容所内で行われていた事柄についての記述がある。



P0029

『ラーガーフォイアー』、松山のドイツ兵捕虜のための週刊新聞、第1年次第26号～第50号

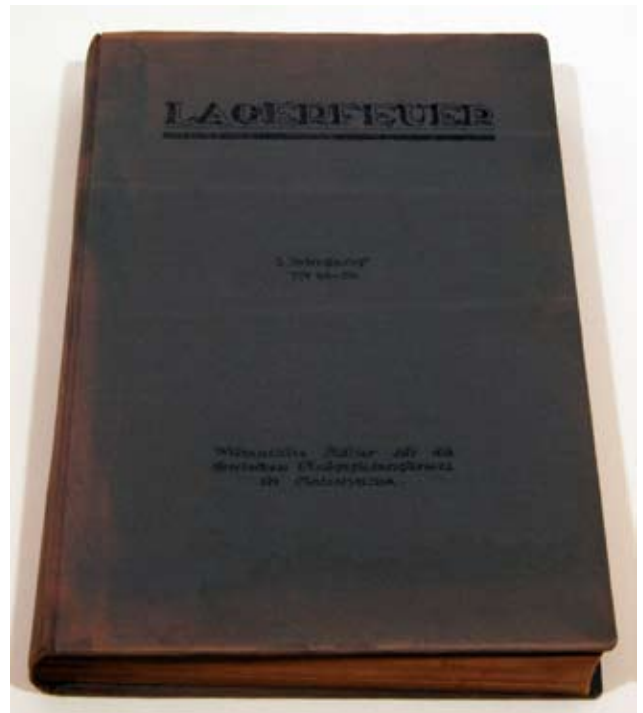
Lagerfeuer. Wöchentliche Blätter für die deutschen Kriegsgefangenen in Matsuyama. I. Jahrgang, No. 26-50. Neudruck, herausgegeben im Kriegsgefangenenlager Bando, Japan. Januar 1919.

1919年1月発行

謄写版（一部多色刷り）

744ページ

布張り製本



P0030（画像なし）

『ラーガーフォイアー』、松山のドイツ兵捕虜のための週刊新聞、第1年次第26号～第50号および第2年次第1号～第13号

Lagerfeuer. Wöchentliche Blätter für die deutschen Kriegsgefangenen in Matsuyama. I. Jahrgang, No. 26-50. & II. Jahrgang, No. 1-13. Neudruck, herausgegeben im Kriegsgefangenenlager Bando, Japan. Januar 1919.

1919年1月発行

謄写版（一部多色刷り）

21.4cm × 32.1cm

494ページ

布張り製本

第1年次後半と第2年次とを合本にしたもの。

P0031

『ラーガーフォイアー』、松山のドイツ兵捕虜のための週刊新聞、第2年次第1号～第13号

Lagerfeuer. Wöchentliche Blätter für die deutschen Kriegsgefangenen in Matsuyama. II. Jahrgang, No. 1-13. Neudruck, herausgegeben im Kriegsgefangenenlager Bando, Japan. Januar 1919

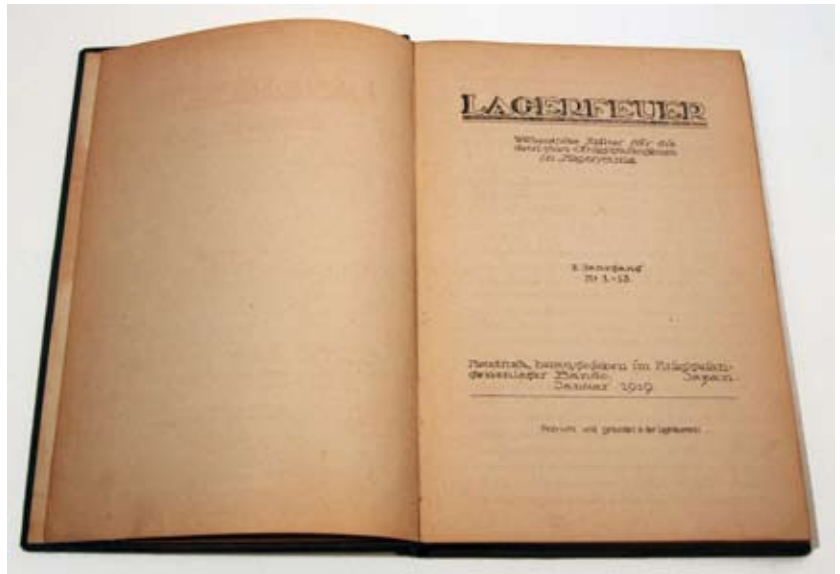
1919年1月発行

謄写版（一部多色刷り）

21.4cm × 32.1cm

250 ページ

布張り製本



P0032

『板東俘虜收容所案内記』

Adressbuch für das Lager Bando 1917/18

1917年11月ごろ？

編集・発行：ルドルフ・ヒュルゼニッツ

謄写版

19.9cm × 26.0cm

84 ページ

紙表紙簡易製本

日本語のタイトルは「案内記」となっているが、ドイツのタイトルにあるように「住所録」とするほうが合っている。内容は第1部がアルファベット順による捕虜名のリストで、そこに地位、收容棟、部屋番号、所属班などが記載されている。そして第2部は收容棟ごとの部屋割りと居住者リストとなっている。その他に收容所内店舗の広告ページと

活動団体についてのページもある。なお、ここには成就院に分離收容されていた非ドイツ系捕虜5名は記載されていない。発行年月日は記載されていないが、1917年12月6日に死去した捕虜の名前が記載されているので、それより以前の発行と見られる。





P0033, P0034, P0035, P0036

『日本国板東俘虜收容所案内』

Fremdenführer durch das Kriegsgefangenenlager Bando, Japan

1918年8月

謄写版

13.8cm × 20.0cm

62 ページ

紙表紙簡易製本

副題に「久留米から板東に来た戦友のために」とあるように、久留米から移送されてきた新入りの捕虜に対して、板東收容所のガイドブックとして制作され、配布されたものである。32.の『案内記』とは異なり、板東收容所で暮らしていくために必要なさまざまな事項や注意点、店舗ガイドなどが記載され、当時の收容所の様子を知る上で貴重な情報源となっている。

P0037, P0038, P0039, P0040

『日本国板東俘虜收容所からの收容所漫筆』

Plaudereien aus dem Kriegsgefangenenlager Bando in Japan

1919年

著者：パウル・ケーニヒ

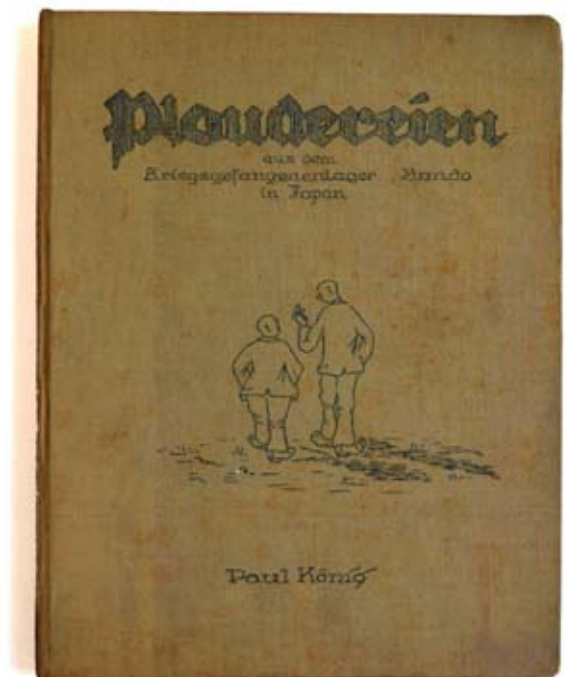
謄写版

17.5cm × 22.7cm

186 ページ

布張り上製本

捕虜たちの生活・活動などをコミカルにまた皮肉をこめて描いたエッセー集。板東への收容当初から翌1918年12月までに書かれたもので、『ディ・バラッケ』中の同名のコラムと多くは内容が重複するが、そこには掲載されていない挿絵がいくつもある。なお挿絵はG.M. (グスタフ・メラウ) が描いている。





P0041, P0042, P0043, P0044, P0045, P0046, P0047

『鉄条網の中の4年半 スケッチ集』

4 1/2 Jahre hinter'm Stracheldraht. Skizzen-Sammlung.

1919年

作者: ヴィリー・ムッテルゼー (絵)、カール・ベール (詩)

石版 (絵) + 謄写版 (文)

27.3cm × 18.0cm

32 ページ

紙表紙簡易製本 (41 と 47) または厚紙・布張り上製本 (42 ~ 46)

板東での一日の生活、さまざまな活動を韻文による描写とスケッチ画によって活写する。表題の「4年半」とは捕虜になってからの年月を言うのであって、板東に居た年月のことではない。印刷は絵を石版で、詩文の部分を謄写版によって印刷している。印刷所の記載はないが、下に示すように裏表紙には石版印刷機が描かれていて、板東東地区にあった石版印刷所での印刷が示唆されている。



P0048, P0049, P0050

『鉄条網の中の4年半 追録』

Nachtrag zu 4 1/2 Jahre hinter'm Stracheldraht

1919年

作者: ヴィリー・ムッテルゼー (絵)、カール・ベール (詩)

石版 (絵) + 謄写版 (文)

28.4cm × 18.1cm

34 ページ

紙表紙簡易製本

表題どおり、これは『鉄条網の中の4年半 スケッチ集』の続編である。こちらは詩文が2ページしかなく、それ以外すべて絵である。末尾に印刷者がヒュルゼニッツ、板東東地区の印刷所 (つまり石版印刷所) であることが記載されている。



P0051

『板東でのわれわれの体操』

Unser Turnen in Bando.

1919年

謄写版

19.5cm × 27.2cm

183 ページ

布張り上製本

序文の日付は1919年7月となっている。板東俘虜収容所内の体操協会の設立(1918年5月)から1919年9月までの活動の記録を収めたもの。



P0052

『俘虜生活からのまじめで快活な詩』

Ernte und heitere Gedichte aus der Kriegsgefangenschaft

1919年

謄写版

13.6cm × 19.4cm

46 ページ

紙表紙簡易製本

青島戦以来、折にふれ歌ってきた長短の詩のアンソロジー。末尾に中部ドイツ方言で書かれた散文。

P0053, P0054, P0055

『第6中隊の過去の映像あるいは不治の鉄条網患者のひらめき』

Schlagschatten aus der Vergangenheit der K.6 oder Gedankenblitze eines unheilbar Stacheldrahtkranken.

1919年12月

作者：カール・ベア

謄写版

19.1cm × 26.5cm

35 ページ

紙表紙簡易製本

1919年12月22日の第6中隊の「お別れの夕べ」で上演された劇の台本。登場人物は第6中隊の捕虜自身の4人。



**P0056**

『第6中隊の演劇』

Theater K. 6.

1919 年末

謄写版

15.3cm × 18.8cm

32 ページ

紙表紙簡易製本

著者の記載はない。収容所からの解放にさいして、松山時代に始まるこの演劇グループの活動と上演内容について回顧する。

P0057

『板東健康保険組合』

Krankenkasse Bando

1919 年 12 月

謄写版

26.3cm × 19.5cm

58 ページ

紙表紙簡易製本

板東収容所には捕虜自身による互助組織として健康保険組合が設立されていた。これは当時、他の収容所では例を見ないものであった。その 1917 年から 1919 年までの 3 年次分の報告とスペイン風邪に関する報告をまとめたもの。

**P0058, P0059**

『第6中隊、バラック第1棟への告別の辞』

Der K 6 zum Abschied von Baracke 1

1919 年 12 月

作者：F. ゴルガー

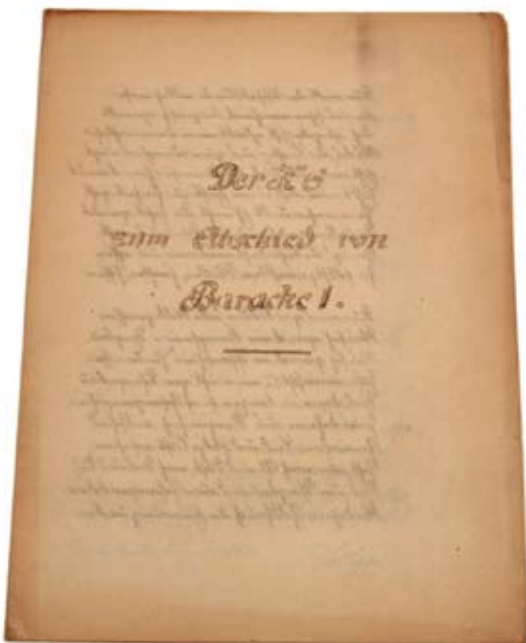
謄写版

27cm × 19.7cm

4 ページ

表紙なし

第6中隊演劇部の舞台があったバラック第1棟へ別れを告げる詩。



P0060, P0061, P0062

『日本国板東収容所俘虜の故国住所録』

Heimatsadressen der Kriegsgefangenen im Lager Bando, Japan.

1919年6月

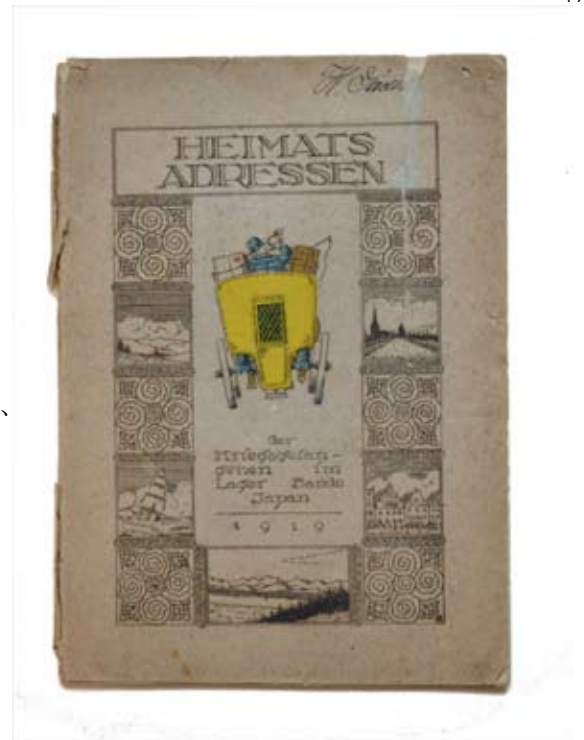
謄写版

19.0cm × 26.5cm

49 ページ

画用紙簡易製本

板東俘虜収容所収容の捕虜たちの本国帰還先の住所録。全員ではなく、827名のみ。



P0063

『板東収容所捕虜の部隊別名簿』

Namentlicher Verzeichnis der Kriegsgefangenen im Lager Bando mit Kompagnieeinteilung

1918年または19年

謄写版

27.4cm × 20.0cm

44 ページ

表紙なし

将校ならびに将校待遇文官をのぞく 994 名の部隊ごとの名簿。原則的に姓のみ記されている。

P0064, P0065, P0066, P0067, P0068

『美術工芸展案内』（ドイツ語版）

Führer durch die Ausstellung für Bildkunst und Handfertigkeit

1918年3月

謄写版

13.7cm × 20.1cm

52 ページ

薄紙簡易製本

1918年3月8日～19日の12日間、板東公会堂と四国霊場第一番札所の霊山寺を会場に捕虜たちの制作した美術工芸品の展覧会が開催された。これはその案内パンフレットであり、制作品の目録ともなっている。日本語版と較べるとより詳細で、作品には作者の名前が付され、収容所内の店舗の宣伝などもある。





P0069

『絵画・手工展覧会案内』（日本語版）

1918年3月

謄写版

13.7cm × 20.1cm

52 ページ

薄紙簡易製本

会場案内図のほか、ジャンルごとに展示品の簡略な名称がリストアップされている。

P0070, P0071, P0072

『日本での収容所生活から集めた言い間違いの花束（ドイツ語迷文集）』

Ein Strauß Stilblüten gepflückt in japanischer Kriegsgefangenschaft.

1919年

謄写版

13.7cm × 20.1cm

22 ページ

画用紙簡易製本

主に収容所当局からの命令・告知などに見られる、ドイツ語としては不適切な表現を集めた冊子。



P0073

『三つの童話』（初版）

Drei Märchen (1. Auflage)

1917年

著者：エルンスト・ベール

謄写版

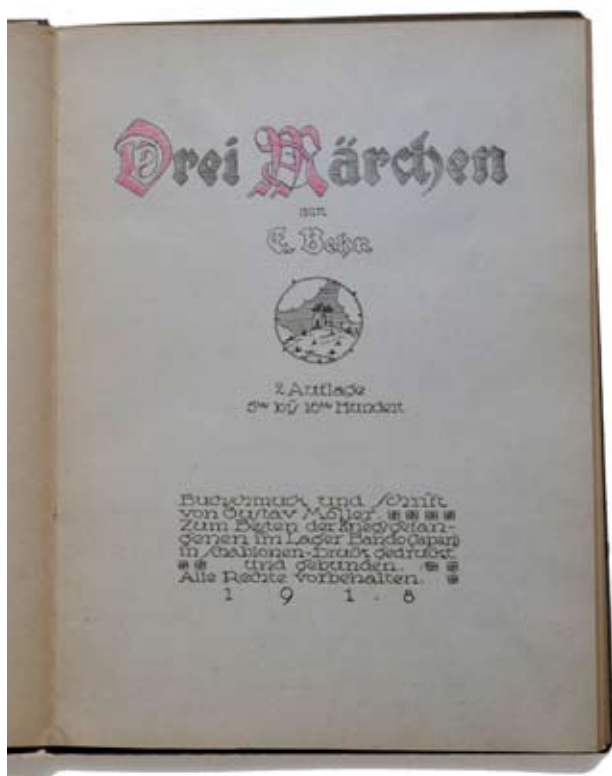
19.3cm × 26.7cm

81 ページ

布張り上製本

「塹壕のハンス・ヴァンダーリヒ」、「幸せのターラー銀貨」、「言葉を話すナイチンゲール」という創作童話3作を収める。著者は捕虜ではなく、神戸在住のドイツ人。売り上げを困窮捕虜の救済に当てるべく企画された著書である。





P0074, P0075, P0076

『三つの童話』(第2版)

Drei Märchen (2. Auflage)

1917年

著者：エルンスト・ベール

謄写版

19.3cm × 26.7cm

81 ページ

布張り上製本

『三つの童話』の初版が大好評であったため、増刷したもの。内容は同一であるが、文字組みと挿絵はすべて新しいものに置き換えられている。

(画像は中表紙)

P0077

『船員生活 23 年』

23 Jahre Seefahrt.

1919年

著者：フリッツ・ブラウン

謄写版

12.6cm × 19.6cm

30 ページ

画用紙簡易製本

講演を元に書かれた、青島に召集されるまでの著者の体験談。なお講演会のタイトルは「船員生活 22 年」である。



P0078

『中国の夕べ』第1部(1917年5月～12月)

Chinesische Abende I, Mai-Dezember 1917

1917年

著者：フリードリヒ・ゾルガー

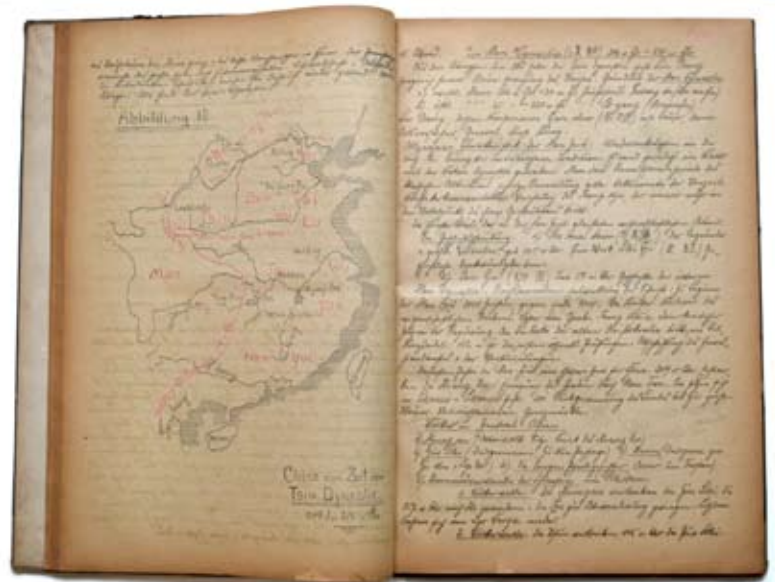
謄写版

27.0cm × 38.5cm

107ページ

厚紙簡易製本

著者は北京大学教授で、第二次世界大戦後ベルリン大学教授となった地質学者であるが、多彩な方面に博識を有する人であった。この本は同名の講演シリーズのうち、最初の34回をまとめたもの。内容は中国の歴史と人文地理および自然地理に関するものである。



P0079

『故国の土と父祖の血—板東収容所で1918年1月から1919年6月まで行われた講演「郷土研究」の思い出』

Heimaterde und Ahnenblut. Eine Erinnerung an die vom Januar 1918 bis zum Juni 1919 im Lager Bando gehaltenen 'Vorträge zur Heimatkunde'

1919年

フリードリヒ・ゾルガー著

謄写版

19.6cm × 27.1cm

403ページ

布張り上製本

ほとんど毎週のように行われていた「郷土研究」と題する講演をまとめたもの。内容は地学的、地史的なもの、生物の進化に関するもの、人類の発生から進化の話、そして考古学から現代のドイツ人にいたるまでの歴史など広汎にわたる。



P0080

『ベートーヴェンの第九交響曲』

L. van Beethovens Neute Symphonie

1918年5月

謄写版

20.0cm × 13.8cm

24ページ

表紙なし

日本初演となったベートーヴェンの第九交響曲公演のための楽曲解説書である。

